

一第47編一 ノルウェーのフィヨルドにて

欧州大陸から離れ、思いのほか広大なスカンディナヴィア^{*1}を北上してみよう。日照時間が冬は極端に短く、夏は本当に長い。だから、気ままな旅を堪能するなら夏がお勧め。だが北国の本質は寒い冬にあるのかもしれない。暗さ、身を切る寒さ、温かいインテリアを実感できるからだ。北極圏まで飛んで徐々に南下するのよし、デンマークを起点に海路をストックホルムかヘルシンキまで渡り、鉄道で北上するのよし。広々とした人気のない大地と自然に魅せられる旅となること請け合いである。

ノルウェーの海岸線は険しい山塊が迫り、リアス式の入り組んだ入り江が延々と続く。そして、その背後に迫る氷河が深く掘り込んだフィヨルド^{*2}の存在がなによりも印象的だ。北極圏から海岸線上に点在するいくつかの港に立ち寄りながらひたすら海路を南下すると、やがて色とりどりの木造住宅群が目をひく豊かな漁業の町ベルゲン^{*3}に辿り着く。印象的な下見板張りの外壁に、赤や黄色のペンキを分厚く塗り重ねた建物群のカラフルな光景は、漁港の活気に溢れたまちの雰囲気さをさらに楽しく増幅してくれる。



写真47-1 フィヨルドに佇む廃屋

*1
Scandinavia: スカン
ディナヴィア半島周辺
の地域

*2
Fjord: 氷河の浸食で
形成された湾入り江

*3
Bergen: ノルウェー西
岸の基礎自治体。市域
で人口約27万



写真47-2 フィヨルドの船着き場

このベルゲンから首都オスロ^{*4}への行程はながなんでも鉄路がお勧めである。鉄道として、世界で最も高い標高地点を通過するからだ。小さな駅で途中下車して水量豊かな滝を間近に眺めたり、もう少し寄り道して思いっきり澄み切った空気と水面に身と心を任せられるフィヨルドの船旅を体験したりもできる。

*4
Oslo: ノルウェーの首
都。人口約61万

写真はそうして船先から目にしたフィヨルドに臨む風景である。幸いなことに、どこまでも抜けるような青空の日中であった。背後の壮大な山塊の姿が巨大な鏡のような水面に映りこむ。その淵の平地にひっそりと佇む一軒の廃屋。一瞬時が止まったような、忘れえぬ記憶の一片となって今も生き続ける(写真47-1)。

その後再び列車に戻り、やがて高地に抜けると、思いがけず延々と続く雪除けの木造トンネルの光景が目飛び込んでくる(写真47-3)。そして、夏ならプラットフォームだけの駅で途中下車してみよう。そこから、高山植物のお花畑がどこまでも広がる一帯を、同行する恐ろしく長く伸びた自分の影に驚きながら歩いてみれば良い。そのうち真夏でも十分冷え込む夕刻を迎え、そろそろ人恋しくなったら、また鉄路を首都オスロに向かえば良い。おせっかいなサーピスとは無縁の北欧の旅は、だから心地良い。



写真47-3 高地鉄路の雪除けトンネル